

# 腎・泌尿器

科目責任者 釜井隆男  
学年・学期 3学年・3学期

## I. 前 文

近年、医学の進歩は目覚しく、その習得には幅広い知識の積み重ねが必要とされる。まず諸君には、将来患者に信頼される臨床医、あるいは優れた研究医となるべく自らを叱咤激励し、勉学に励むように期待したい。

今回「腎・泌尿器」では講義の重複を避けるため、臨床科をまたぐ疾患については同一時限に関連する科で受け持つこととした。発生・解剖・生理・病態・治療を系統的に講義するが、学生においては講義を受けるという受動的な態度ではなく、質問を含め能動的に講義に参加することを期待する。また講義の折々に疾患に関する最新の話題や、最新の治療法についても触れ、興味ある講義としたい。

## II. 担当教員

泌尿器科学	釜井隆男		
小児科学	白石秀明		
腎臓・高血圧内科	頼建光		
埼玉医療センター・腎臓内科	竹田徹朗	埼玉医療センター・泌尿器科	齊藤一隆
非常勤講師：泌尿器科学	阿部英行	腎臓・高血圧内科	中野信行

## III. 一般学習目標

まず「腎・泌尿器」の各臓器につき、その発生・解剖・生理につき習得する。次いでこれらの異常として発症する各種疾患の病態につき理解する。これらの理解のもと如何なる検査を行えば鑑別診断・確定診断が効率的になされるかを学び、適切な治療への基本的知識を習得する。

## IV. 学修の到達目標

講義とは医学用語を単に暗記させるための時間ではない。学んだ医学知識をいかに消化し、いかに他の知識と統合させていくか。またそれらからいかなる仮説が立てられるか。という思考法を習得する時間でもある。「腎・泌尿器」の講義からこのような思考法を学び、将来において問題の自己解決ができるような能力を養うことをその到達目標とする。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	11	5	木	1	総論	泌尿器科学 釜井隆男	1
2	11	5	木	2	腫瘍学Ⅰ (腎癌・副腎癌・腎後腹膜外科学)	泌尿器科学 木島敏樹	1
3	11	5	木	3	腫瘍学Ⅱ (尿路上皮癌)	泌尿器科学 木島敏樹	1
4	11	6	金	1	内科学的腎疾患Ⅲ (全身性疾患に伴う腎病変)	日光医療センター 心臓・血管・腎臓内科 川本進也	1

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
5	11	6	金	2	急性腎障害	腎臓・高血圧内科 中野 信行	1
6	11	6	金	3	慢性腎不全	腎臓・高血圧内科 南木 浩二	1
7	11	6	金	4	下部尿路症状・尿失禁・神経因性膀胱	泌尿器科学 別納 弘法	1
8	11	6	金	5	泌尿器感染症	泌尿器科学 別納 弘法	1
9	11	6	金	6	小児科学的腎疾患Ⅰ	小児科学 小加納 優治	1
10	11	6	金	7	小児科学的腎疾患Ⅱ	小児科学 小加納 優治	1
11	11	9	月	1	精巣機能と性分化・生殖医療	埼玉医療センター泌尿器科 齋藤 一隆	1
12	11	9	月	2	内科学的腎疾患Ⅰ（糸球体腎炎）	腎臓・高血圧内科 阿部 誠	1
13	11	9	月	3	内科学的腎疾患Ⅱ（ネフローゼ症候群）	腎臓・高血圧内科 阿部 誠	1
14	11	9	月	4	腎生理学Ⅱ（電解質バランスと輸液）	腎臓・高血圧内科 頼建光	1
15	11	9	月	5	腎生理学Ⅰ（酸塩基平衡）	腎臓・高血圧内科 頼建光	1
16	11	10	火	1	解剖学 解剖学的異常と疾患	泌尿器科学 木島 敏樹	1
17	11	10	火	2	腫瘍学Ⅲ（前立腺癌・肥大症）	泌尿器科学 安士 正裕	1
18	11	10	火	3	症状と疾患	泌尿器科学 安士 正裕	1
19	11	10	火	4	腎移植	埼玉医療センター泌尿器科 徳本 直彦	1
20	11	10	火	5	尿路結石	泌尿器科学 阿部 英行	1
21	11	11	水	1	腎・尿路系 小児泌尿器	埼玉医療センター泌尿器科 宋成 浩	1
22	11	11	水	2	加齢と性ホルモン・性同一障害	泌尿器科学 別納 弘法	1
23	11	11	水	3	泌尿器科処置	泌尿器科学 別納 弘法	1
24	11	11	水	4	腫瘍学Ⅳ（陰茎癌・精巣癌など）	泌尿器科学 幸英 夫	1
25	11	11	水	5	血液浄化療法	埼玉医療センター腎臓内科 竹田 徹朗	1
26	11	12	木	1	「腎泌尿器」で扱う医学英語	泌尿器科学 木島 敏樹	1
	11	16	月		腎・泌尿器 試験		

#### Ⅵ. 評価基準（成績評価の方法・基準）

授業態度10%（出席状況：全出席が前提，講師に対する質問）と定期試験90%から判断するが，時々行う小テストの点も考慮に加える。なお，定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計される。

Ⅶ. 教科書・参考図書・AV資料

- TEXT 泌尿器科学 南山堂
- エッセンシャル腎臓内科学 医歯薬出版
- 標準泌尿器科学 医学書院
- NEW 泌尿器科学 南江堂
- 基本泌尿器科学 医学図書出版
- メディカルノート 腎臓がわかる 腎・尿路疾患／水・電解質異常 西村書店

Ⅷ. 質問への対応方法

随時受け付ける。但し、事前に秘書を通じ、アポイントをとること。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	○
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

Ⅹ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題について，間違いや誤解が多い点を随時解説します。

Ⅺ. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

Ⅻ. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。